

タウ

損害車のリユース・リサイクル
推進や終末期患者の外出支援
「願いのくるま」等の諸活動

「カー・トリアージ」使い効率的に

買い取り・修理金額を即座に

タウ（宮本明岳社長、さ
いたま市中央区）は、「社
会・環境・人材」を軸に、
事業活動やCSR（企業の
社会的責任）活動を通じて
SDGs（持続可能な開発
目標）への寄与を目指して
いる。

1996年の創業時から
損害車のリユース、リサイ
クル事業で社会・環境・経
済へ貢献するため、地球規
模での循環社会の実現に向
けた損害車の最適な処理方
法を選挙する概念を提唱し
てきた。「カー（車）・ト
リアージ（治療優先順位を
決める医療用語）」という
造語をつくり、損害車を
「修復利用」「部品利用」
「素材利用」の3つに区分
して、どのような状態の車
も最大限に生かせるよう効
率的なリユース、リサイク
ルに取り組んでいる。その
結果、年間約5万台の事故
車が世界123カ国で利用
されている。

2021年10月には、人
工知能（AI）を用いた
「カー・トリアージシステ

ム」を開発。車両の画像や
情報をシステムに入力する
ことで、買取・修理金額の
即座提示を可能とした。22

年12月の一般ユーザー向け
提供を目指し、損害車の最
適な売却方法を提供する。
社会貢献分野では、18年

が同行して日帰りで行ける
場所に患者を送る。民間救
急から専用車や看護師の支
援を受けるという仕組み
だ。一般社団法人を設立
し、タウをはじめとする協
賛企業の支援を受けて運営
している。



1月に終末期の
医療・看護を受
けている人の生
活の質向上への
寄与を目指し、
外出支援ボラン
ティア「願いの
くるま」をスタ
ートさせた。人
生最期のドライ
ブを無料で支援
する日本初の取
組みだ。病院
から患者の紹介
を受け、看護師
らも募り、新車販売会社が
協賛企業として加わるな
ど、支援の輪を広げてい
る。

〈受賞者コメント〉当社は創業以来、損害車のリユース・リサイクルを通じ
て、地球規模で「モノが大切にされ続ける循環社会の実現」に取り組んでいま
す。損害車の最適な活用方法を選択する「カー・トリアージ」や、終末期の患者
様を人生のラストドライブへお連れする「願いのくるま」等のCSR活動を通じ
て、自動車業界の更なる発展とより豊かな社会の実現に取り組んで参ります。